



米佛二大國財政考

大藏省
翻譯課

2962





米佛二大國財政考

府ノ論者ニ答フルノ書ナリ 米ノ經濟學士カリー氏
カリー氏一八八四年談國債

國債ハ以テ民益ヲ助クルノ効績アル乎又字内ノ諸國皆ナリ
財ノ道ヲ誤レル乎ヲ論辨ス

佛國ノ碩儒モンテスキユ氏ノ時代ニ於テ既ニ國債ヲ起スハ民
益ヲ助クル基業ナリト云フノ説頗ル世上ニ行ハレタリ故ニ其
由來スルマ久レ矣同氏ハ曾テ其説ヲ敷衍シテ云ク當時世ノ論
者々專ラ國債ヲ以テ邦國ヲ利スルモノト認メシハ唯ク全般ノ
金融ヲ増シ一層生財ノ道ヲ振興スルノ方便アルヲ賴ム故ナ
リ
借テ世ノ斯ル論説ヲ唱フル者ハ直ニ國債ヲ増セハ交際物産民
業貿易ハ一般ニ盛大ニ赴ク可レト思惟スルノミニテ審ニ具

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

小野一郎譯

理由ヲ究明スルニナク唯タ國債ヲ起セハ自然ニ邦家ノ陰運ヲ
促スニ足レリト臆断セシモノト云フ可キナリ
凡ソ國債ヲ起スハ國用ノ切迫ニ際シ余義ナク之ヲ募集スルニ
依リ苟モ牧民ノ任アル者ハ勉テ其使用ヲ國益ニ供スルノ便宜
ニ向ケサル可カラズ然ルハ國債ハ却テ民益ヲ興スノ基業ヲ
ルヲ得ルモノナリ然レハ賢明ナル執政家ガ安ニ國債ヲ起サス
シテ克ク邦國ヲ興スルノ幸福ヲ与フルニ如クハナレ然ルニ世
人ハ往々斯ル事實ヲ等閑ニ付シ徒ニ國債ヲ募ルヲ國是ト認ム
ルニ至レリ余輩姑ク我國ト佛蘭西ノ近況ヲ例証シテ以テ國債
ニ関スル事情ヲ述フル所アリ
一千八百六十年ノ冬季ニ方リ南北ノ戦争起リ合衆國政府ハ為
ニ疲弊シ其翌年ニ及テ國庫ハ殆ト軍費ヲ支フルニ足ラズ一ケ
年一割二分ノ高利ヲ以テ金借ヲ求ムルノ勢トナレシ其頃世ニ

名望アルリシコロン氏始テ大統領ノ重職ヲ襲テ大ニ國政ヲ整革
シ慨然奮テ國難ニ當レリ又我々議院ハ大蔵卿「チエス」氏ト協力
シテ公債手形券スルニ請求次第交換及ヒ公債証券ヲ發スルノ
法案ヲ審議スルニ至レリ而テ此ノ可決ニ依テ重ニ公債証券ヲ
發行スルニ定マレリ然ルニ稍々目下ノ時勢ニ適マサル処アル
ヲ以テ頗ル民ノ疾苦ヲ招キタリ
儲テ政府カ内閣ニ銀行ニ募債ノ取扱ヲ依頼セシニ方リ銀行
ノ徒ハ何レモ萬義ヲ振ヒ公債募集ノ任ヲ負擔シタリ因テ「チエ
ス」氏ハ公債証券諸銀行ニ送付シ追次ニ正金ノ仕拂ヲ請求セシ
ト然レハ銀行ノ引換金漸々缺乏シタレハ金融塞リテ又之ヲ疏通
スルノ道ナリ遂ニ一千八百六十一年第十二月三十日諸銀行ハ
一般正金ノ仕拂ヲ断ルニ至レリ此時ヨリ諸般ノ民業ハ恰モ廢
絶ニ如ク凡ソ一ケ年間ハ交際上ノ金融全ク壅塞セリ是ニ於

テ政府ハ官民ノ融通ニ便ナル方法ヲ設ケテ勞カト物品ヲ互ニ交
換授受ス可キ旨ヲ發令シテ漸ク未曾有ノ厄運ヲ挽回シタリ者
云フ此原文竊モ簡約ナリ當時外人ノ困厄ニ會
ハレ事情ハカクシレ氏ノ經濟界ニ詳カナリ
一千八百六十二年第一月ノ下旬頃ハ政府ノ幣幣殆ト尽キ最早
國用ヲ支出スルノ余カニ乏シカリキ當時若シ遷延シテ理財上
ノ方法ヲ改メス依然トシテ凡ソ六十日ヲ空シク過マハ我ク國
庫ヲ閉シ海陸軍ニテ悉ク解散セシメ邦國將ニ顛覆ヲ蒙リ叛
民ノ子ニ料理ナルノ時運ニ會マシナラン然ルニ合衆國ノ人
民ハ斯ル困厄ニ際シ以テ大藏省証券ヲ一般ニ通貨ト定ムルノ
必要ナルヲ悟リ大藏卿及ニ國會ヲシテ紙幣條例ヲ設立セシ
テ議定マシムルニ至レリ
斯ク邦國ノ存亡且タニ迫リ一時ノ推道ヲ行フト雖モ殆ト人民
ノ財本ヲ強請スル如キ處分ニ至リ國民ニ對シテハ明ニ寬恕ヲ

講^請フ^レ處アルヲ知ル可シ

一千八百六十二年第二月二日下院ノ會議ニ於テイルノサスノ
代議員「ウルリヤム、ケルローグス」氏ハ持リ雄弁ヲ振テ断然大藏
省証券ノ所有人ニ寬恕ヲ請フ當時ノ反論者大藏省証券ヲ通貨
ト定メテ一般ニ授
受スルヲ肯マフヲ批駁シテ理財上ノ方畧ヲ定ムルニ在リト云
ルモノヲ云フ
ヘリ
此時「ケルローグス」氏ヲ呼テ曰ク余ヤ議場ニ臨
ミ衆議員ノ審議スル處ヲ聽キ實ニ痛嘆ニ堪ヘス如何トナレハ
今ヤ邦國ノ命脉且タニ迫リ殆ト人民ノ財本ヲ強請スル如キ場
合ニ至レハ金利按スルニ大藏省証券ノ如何ヲ論スルノ秋ニアラ
サルナリト答テ曰ク然リ今マ此金利ヲ烏有ニ屬マシメハ公衆
ニ對シテ邦家ノ体面ヲ汚サス陸軍ノ壯兵六十万人ヲ給養スル
ヲ得ヘシ然リ而テ大藏省証券ヲ所持スル輩ハ為ニ其金利ヲ放

却スルハ不得モニシテ到底両金ヲ得ヘカラサルナリ
曩ニ我カ政府ノ發令ヲ以テ壯兵ヲ募ルヤ命ニ應シテ兵役ニ服
シタリ然ラハ吾人カ令マ國用ヲ募ルノ切要ナルニ際シ共和政
治ノ衰運ニ歸シ聯邦政体ノ未タ瓦解セサルニ先テ若シ富有ノ
者振奮シテ此募金ニ應セサルハ聯邦諸州ノ官庫ヲ始メ全國
ノ財主及ヒ戸主等ニ課シテ國用ヲ募ルノ外別ニ方策ヲ建ルノ
道ナシ試ニ思ヘ氏ノ財本ハ畢竟政府ノ保護アルヲ以テ始テ
其價アルモノナリ若シ然ラズンハ世上苟モ財宝タルノ價値ア
ルモノ無カル可シト

右ノ謙論最モ簡明ニシテ目下ノ國勢ニ切ナルヲ以テ當時ノ非
議者ハ為ニ壓服サルハノミナラス代議員ノ多数ニ依テ竟ニ此
法案ヲ可決スルト成レリ然リ而シテ全國ノ財力未ク國用ヲ支
フルニ足ラサルク故ニ又議院ノ協議ニ於テ余儀ナク紙幣ヲ發

シ一般ノ授受ニ供スルノ方便ヲ設クルニ至レリ顧テニ我カ人
民ハ恭平ノ昔日ト強ク恐ク斯ル偉岸ヲ決行シ能ハザルナリ儲
テ當時南部ノ叛民ハ背蓋紙幣ヲ拒毀セスト強ク民間大ニ紛議
ヲ生シ各黨ノ協合セサルヨリ更ニ信用ヲ措クモノナレシヲ以
テ往々富民ノ徒ハ為ニ破産ヲ免ルハ者鮮クナリシト云フ之ニ
反シテ北部ノ人民ハ紙幣ヲ以テ漸ク邦國ノ危急ヲ救ヘリ故ニ
之ヲ海民ノ大器ト云フモ妨ケナカル可シ

邦家禍乱ニ會シ人民疾苦ヲ蒙ルノ際ニ方リ我カ政府ハ紙幣ヲ
發シ遂ニ其厄運ヲ恢復セシヲ以テ世ノ論者動モスレハ斯ル實
況ヲ証シ来リ平時ニ在テハ戦乱ノ為メニ殆ント廢物ニ属セシ
モノヲ容易ニ修復スルノ方畧ヲ得ヘシト云フ者アリ然ルニ我
國ノ「マクロックス」氏「ハウドウエル」氏「リチャルドソン」氏「エ
ルメンス」氏「ヨナス」氏及ヒ「グランド」氏ノ輩ハ何レモ世ニ有名

ナル大蔵卿タリ執政家タリト雖ハ前説ノ如キハ實ニ克ハサルヲ覚知シタリ

我カ政府ハ叛乱ヲ戡定セシ後々徴税ノ方法ヲ以テ漸ク理財上ノ困弊ヲ修理シテ殆ント将来ノ危嶮ヲ恐ルハ是ラサルノ勢トナリ人民モ從テ休養スルノ地域ニ至ルモ彼ノ背藍紙幣ノ如キハ政府未タ支消法ヲ奉行スル克ハ殆ト民財ヲ強請スル如キ處置ニ拘テ漸ク之ヲ不交換紙幣ト定メシニ過キサルノミ然レハ其紙幣高殊ニ巨額ナレハ正金ヲ以テ流通高ノ幾分ヲ交換シ相当ノ價額ニ之ヲシテ騰上セシメント雖モ國民交際上ノ景況ハ背藍紙幣ヲ不交換紙幣ト變質セシカ爲メ凡ソ九ヶ年間疲弊シテ戦亂ノ災ニ十倍スルノ慘状ヲ顯ハシ此ニ於テ最早人民ハ斯ル政府ノ債ヲ負擔スル能ハサルニ至レリ蓋シ既往兵亂ノ日ニ在テハ人民奮テ國用ノ募集ニ應セシモ是ニ至テ恰モ其趣

ヲ一變セシ如キ有様ニナレリ而シテ我カ政府ハ公債ヲ外國ノ債主ニ依頼スル程ノ窮迫ニ會シタリ是ニ由テ之ヲ觀レハ苟クモ政務ニ達セザル者若シ牧民ノ責任アルニ際シ幸ニ邦國ノ危急ニ會マスンハ其惡政ノ所及兵亂ニ會セシ禍災ヨリモ一層民瘼ニ関スルモノ許多ナル可シ然リト雖モ一旦邦國ノ危急ニ方レハ拮据公債ヲ募リ却テ人民ヲ幸運ニ躋スル所アリト云フ現ニ今ヤ此説ノ外國行ハレ實際ニ其事情アルヲ知ルニ足ルモノアリ

余輩今マ佛蘭西ノ近況ヲ実証スル所アラントス往年佛國政府ハ日耳曼ト戦テ大ニ敗衄ヲ取ルヤ當時該國人ハ莫大ノ軍費ヲ支出マシノミニ拘ハラズ講和ノ爲ニ巨額ノ償金ヲ敵國ニ拂渡シタリ蓋シ中古以來自他歐洲ノ諸國ニ於テモ他國ノ如ク巨額ノ償金ヲ要求サレシ例ナレ一千八百七十二年ノ末ニ於ケル計

算ニ拠レハ軍費ノミヲ以テ該國政府ハ十六億四千九百万弗ノ
 國債ヲ増シタリ

一千八百七十五年第四月十五日取調ノ
 軍費一覽表

諸般ノ費目	諸仕拂ノ價額
軍人軍屬ノ諸公用	五二一、〇〇六、五八〇弗
日耳曼エノ償金	一、〇九〇、九六三、〇八〇弗
軍事ノ諸雜費	一九三、四九六、〇四〇弗
現金諸拂ノ概算高	七二、九〇〇、〇〇〇弗
戰爭中諸職ノ休業損失高	一四五、八〇〇、〇〇〇弗
以上通計	二、〇二四、一六五、七〇〇弗

此時ニ當リ各國ノ人民或ハ佛國ノ滅亡迄キニ在リト云ヒシニ
 尔後該國ハ依然トシテ更ニ衰状ヲ顯ハセシ處ナリ一千八百七

十三年ト一千八百六十九年輸出入ノ總額ヲ比較スレハ現ニ貳
 億五千九百八十一万四千六百弗ヲ増加シタリ斯ル景況ヲ視ル
 ハ内國ノ通商モ之ニ準シテ増進セシラ知ルニ足レリ
 一千八百七十年第九月佛國銀行ハ正金ノ仕拂ヲ一時止メシト
 茲ハ同年第六月ノ計算ニ於テ該行ノ金融高ハ漸ク二億七千五
 百万弗ナリ然リ而シテ一千八百七十三年第十月ノ計算ヲ視レ
 ハ金融ノ額大ニ増進シテ六億零二百万弗ニ上レリ因テ熟々追
 想スルニ一千八百四十八年佛國ノ理財上ノ方畧ヲ改メシヨリ
 内國ハ為メニ未曾有ノ衰状ヲ顯ハシタリ今ヤ其景況ヲ左ニ記
 ス可シ

佛國ノ銀行手形ヲ合法通用紙幣ト改メ一般ノ金融ヲ更革
 シタル効績ヲ叙ス
左ノ一章ハ一千八百四十九年第二月十
 六日倫敦府刊行ノタイルハス新聞誌ヨリ
 モ抄出ナリ

佛國銀行ハ通高上ノ権道ニ依テ正金ノ仕拂ヲ一時止メタリ
然リト雖モ當時該行ノ財産ハ固ヨリ以テ欠債ヲ償フニ充分
ナルガ故數旬ノ間ニハ容易ニ諸般ノ負債ヲ處分スルニ難カ
ラスト思惟シタリ然ルニ「エムアルゴ」ト氏ハ右ノ権道ヲ
違突ナラスト認メシヨリ之ヲ排斥シテ只管テ金融ノ方法ヲ
議レ一般ノ金融壅塞ヲ疏^通シテ試ミシト雖モ遂ニ其実効
ヲ奏スル処ナク民間ノ融通愈々塞リ銀行ハ勿論公私ノ別ナ
ク人民皆テ貨幣ヲ需求スルニ至レリ斯ル切迫ニ會スレハ工
匠ノ夜常ニ社會ノ安寧ヲ妨クルノ恐アルニ依リ勉メテ製造
局ノ事業ヲ維持シ加之巴里府下ニ於テハ先ツ人民ノ食料兵
士ノ給料工職ノ活計杯ニ欠ク可ラサル程ノ金融ヲ興スノ目
下ニ切要ナル場合ト成レリ當時若シ此急務ヲ怠リシハ府
民直ニ騷擾シテ一場ノ慘劇ヲ視ルニ至ル可シ然レモ幸ニシテ

斯ル厄運ニ會ヒサルモ此數日間ニ於テ銀行ノ仕拂フ可キ高
二千六百万フランクノ内ヨリ銀債ニテ漸ク四万七千フラン
クヲ拂ヒシ程ナレハ民間ノ貨幣ハ日々ニ缺乏シテ人心為ニ
驚擾スルニ至レリ

佛國銀行ハ究迫愈々加ハリ最早正金ヲ存スル克ハサルニ至
レリ是ニ於テ政府ハ該行ヲ救助シテ此投塞ヲ疏^通シシカ為メ
第三月十五日ノ夜竟ニ法令ヲ下シ該行ヨリ發行セシ手形ヲ
悉ク合法通用紙幣ニ改定セシメタリ然リ而テ發行ノ全額ヲ
三億五千万フランクト制限シ其紙幣ヲ數種ニ分テリ就中公
衆ノ所用ニ便ナランカ為メ金貨ノ最モ寡ナキモノヲ「一百」フ
ランクト定メタリ儲テ此事情ヲ叙記スルニ方リ最モ難事ト
認ムルハ目今先ツ民間ノ使用ニ供メンカ為メ差当リ「一百」フ
ランクノ銀行紙幣ヲ急ニ行刷スルニ在リタリ故ニ此十日間

ニ八千万フランクノ銀行紙幣ヲ印行セリ斯ク該行ハ免メテ
正金ヲ存スル方法ヲ行フニ際シ幸ニ政府ク法令ヲ發セシニ
依リテ漸ク若干ノ準備金ヲ保存スルヲ得タリ而テ又該行ハ
高價ヲ拂フテ外國ヨリ地銀九ソ四千万フランク程買入レタ
ルヲ以テ該行ハ為ニ銀貨一億万フランクヲ巴里府ノ大藏省
及ニ諸官廳ニ差出スノ場合ニ及ヘリ當時該行ノ支店ノ帳簿
ヲ總計スルニ本年三月以降諸地方ニ向ケ五フランクノ貨幣
五億零六百万フランクヲ散布シタルヲ以テ人民友際上ノ景
況ハ漸ク一變シテ金融ノ道疏通スルヲ得タリト云フ
佛國銀行ハ振テ理財上ノ梗塞ヲ挽回セシノミナラス追次ニ
政府ノ募金ニ應スル資額ヲ得ルニ至レリ則チ第三月三十一
日収税局ノ金券ヲ受取テ五千万フランク又第五月五日三千
万フランクヲ政府ニ差出シタリ而レテ第六月三日ニハ一千

八百四十九年第三月限ノ定額ヲ以テ一億五千万フランクヲ
償渡しタリ加之該行ハ尚又凡ソ五千万フランクヲ内國ニ散
シテ民間ノ金融ニ供シタリ尔后又政府ノ新公債二億五千万
フランクノ募集ニ應シ且又巴里府ヲ始メマルセル港セイ
州及ニ各地ノ諸病院ニ貸付ヲナシタリ此ガノ賃金高ヲ合計
スレハ其金額ニ億六千万フランク有餘ニ上レリト云フ斯ク
該行ノ賃金高ハ莫大ニ及フト茲ニ該行ニ於テハ未タ其金融
ヲナスニ支フル処ナシ然リト雖モ國內ノ諸業大ニ衰状ヲ顯
ハシ貧民或ハ騷擾スルノ勢アルヲ以テ先ツ諸工業ノ利益ヲ
保護センク為メ國會ノ法令ニ由テ諸般ノ商品ヲ官庫ニ預リ
人民ニ賃金ヲ許スノ方法ヲ設ケタリ諸君其抵当品ノ目錄ニ
ハ官ノ與書ヲ以テ其善否ヲ誌スルヲ例則ト定メタリ而テ仏
國銀行ハ此與書アル受取証各ヲ確實ナル信標ト認メテ割引

債ノ取扱ヲ掌トレリ此時該行ハヘウレ^{名地}ニ於ケル物産ヲ
 抵当品トシテ漸ク一千八百万フランクヲ貸出シタリ又巴里
 府ニ於テハ高品ニ一千四百万フランクヲ貸出セリ儲テ斯ル
 方法ヲ以テ金融ヲ起シ商業ヲ振作メンカ為メ貸出セシ処ノ
 金融ハ六千万フランクニ上レリ然レモ此便法ヲ設ケシニ依
 リ上ニ大蔵卿ヨリ下モ邊境ノ高估ニ至ルマテ直接ニ諸民皆
 ナ應分ノ利益ヲ失ハサリシナリ当時ノ景況ヲ追想スレハ通
 商工ノ命脉ハ殆ト杜絶スルノ勢ナリシナリ蓋シ斯ル危急ニ
 方リ法制エヨリ治術ヲ施セシハ恰モ水工器械ヲ以テ清流ヲ
 溉^リシ如リ社會上ノ信憑忽チ勃興シテ衰弊ノ金融ヲ復シタ
 リ

佛國政府ノ厄運ニ際シ人民振テ邦家ノ義務ヲ尽サント欲シ凡
但一千八百七十三年倫敦政府ノ銀行條例及金利割合表、第百
二十三葉ヨリ五葉ニ詳カナリ

ソ誇奢ニ供スル各人ノ資格ヨリ出税セシメ以テ償還スヘキ國
 債ヲ舉ケタリ故ニ政府ハ條約面ノ定期ニ先チ償金十一億万弗
 ヲ日耳曼ニ拂ヒ渡シタリ依之從前ヨリモ一層廢費ニ供スル諸
 般ノ税額ヲ増シタリ則チ其概畧左ノ如シ此項迄伽排ノ收税高
 一ヶ年五百万弗ナリシカ一千四百万弗ニ上レリ砂糖ノ收税高
 一ヶ年二千一百万弗ナリシカ三千五百万弗ニ上レリ諸印税及
 七免状存替手数料オノ收額一ヶ年九千五百万弗ナリシカ一億
 一千五百万弗ニ上レリ輸入税ノ收額一ヶ年二千七百万弗ナリ
 シカ五千二百万弗ニ上レリ然ルニ酒類ニハ二ヶ年内ニ唯タ六
 箇条ノ税法ヲ加入セシノミ然リ而テ食物ニ供スル諸品ニモ此
 割合ニ準シテ税額ヲ増シタリ○國民ノ義氣ヲ以テ容易ニ國債
 ヲ募リシト税法ヲ改メ歲入ヲ増セシトノ偉奉アルニ依リ該國
 政府ハ漸ク理財上ノ弊改ヲ維持シタリト云フヘシ而テ我輩ハ

該國が將來如何ナル成果ヲ現ハスマラ究明セザルヘカラス借
 テ該政府ハ曩ニ佛國銀行ヨリ三億零六百万弗ヲ借入レタレ氏
 既ニ一億三千三百万弗ヲ償還スルニ至レリ是ニ於テ該行ハ此
 返金ヲ収ムルノミナラス其項充分ノ貯積金アリシヲ以テ一千
 八百七十三年第十月三十日ヨリ翌年ノ第六月廿五日迄ニ一時
 ノ融通ニ供セシ所ノ銀行紙幣六億零二百万弗ヲ追次ニ支消シ
 テ四億九千五百万弗ニ減却スルヲ得タリ然リ而テ又民間ノ貸
 付及割引債二億七千万弗ヲリシカ漸々回収セルヲ以テ其
 總額ハ一億七千万弗ニ減却シタリト雖モ當時該行ハ勉メテ正
 金ヲ引奉タルニ依リ既ニ其金庫ニ貯フル一億四千五百万弗ノ
 正金高大ニ増加シテ二億三千五百万弗ニ上レリ右ノ計筭ハ該
 行々漸ク一千八百七十三年第十月ヨリ一千八百七十四年第六
 月廿五日迄ニ取扱ヒレ処ノ総出入ナリ蓋シ此内八月月間ハ從

前ヨリ卒カニ諸般ノ稅額ヲ増セシ影響ニヤ坊間ノ高況ハ稍々衰
 状ヲ現ハセシ所アリタリ

銀行紙幣ノ消却高	一億零七百万弗
正金ノ回復高	九千万弗
貸付及割引債ノ回収高	一億零七百万弗

佛國ハ全般ニ未曾有ノ疲弊ヲ蒙リタリト雖モ未タ破滅スルニ
 至ラサレハ政府ヲ始メ一般ノ形勢俄カニ變動シテ人民垂離ヲ
 生スル程ノ景情ナカリキ苟モ此ノ實跡ヲ探知セシ者ハ誰カ其
 ノ國勢ノ強大ナルヲ驚嘆セサルモノアラン我僑テ斯ル厄運ヲ
 救ハシカ為メ大ニ稅法ヲ改メシヲ以テ現ニ物産ノ製造高ヲ減
 シタリ然レ氏歲入上ニ於テハ之ガ為メ僅々五百二十五万弗ノ
 缺乏ヲ顯セシノミ而シテ又本年ノ初代議貴ノ會場ニ於テ新ニ
 賦稅ヲ設クル法案ヲ斥ケシカ故内國ノ收稅高ハ為ニ五百万弗

ヲ減シタリ熟々斯ル実況ヲ視察スルハ殆ント吾人ヲレテ愕
然タラシムルニ足ルモノアリ蓋シ斯リ愛國心ニ熟中スルノ人
民カ斯ル施治者ノ下ニ管理マラルハノミナラス施治者カ尚ホ
未タ其権内ニ於テ容易ニ斯ル人民ヲ統馭スルノ巧妙ヲ知ルヘ
シ
世上ノ史編ヲ探クルモ凡ソ國政ヲ司トル者ハ先ツ財務ニ通シ
而シテ后ヲ始テ斯ル英邁ナル民ヲ未ダ曾テ統治シタル例ナレ
是ニ由テ之ヲ觀レハ斯ル困厄ニ當リテハ施治者ノ技倆或ハ邦
國ヲ破滅スルヲ免レサルベシ然ルニ克ク其成果ヲ見レハ大ニ
想像ニ異ナル処アリ何トナレハ世間ニ在テハ素ヨリ多クノ苦
情ヲ免ケル能ハズト虫氏現然変状ヲ顯ハセシハ唯タ巴里府ニ
於テ大ニ高況ノ衰微ヲ覺ユルノミニテ國政ヲ司トル施治者モ
入焉メニ其ノ職ヲ黜ケテハ程ノ失措ナキヲ証明スルニ足レ

バナリ

前条ニ述ブル事情ヲ究明スルニ臨ミ先ツ英國ノ學士カ著論マ
レ所ヲ引証セントス佛國ハ中古以還ノ歴史ニ於テ地方ノ農民
ト市井ノ工夫トハ殆ント合体シテ一黨派ヲ成セリト虫氏農民
ハ固ヨリ絶然タル保守黨ニシテ英國ノ君主專治ニ類スル趣奇
ヲ遵奉シ来レリ而シテ工夫ハ共和政治黨ニシテ專ラ自由ヲ唱フ
ル者多シ夫レ斯リノ如ク農工ハ自ラ黨類ヲ分テ各々其目度ヲ
異ニシ性質ヲ同フセズト虫トモ農工ノ徒ハ何レモ又共和政治
ヲ欽慕マサルモノナレ然リト虫氏農民ハ自然ニ純粹ノ共和政
ヲ贊成スルニ忍ヒス彼カノ自由政治ヲ唱フルニハ保守漸進論
ノ主義ヲ執レリ故ニ此黨徒中行ハルハ持論モ自ラ他ニ異ナレ
リ姑ラク其所論ヲ言ハンニ適度ニ固有ノ改修ヲ保テ漸次ニ其
方向ヲ改進スルノ説ナリ斯ル情實ハ農民ノ氣質及ヒ其ノ持論

ニ於テ明ニ徵証スルヲ得ベシ蓋シ他國ハ斯ル政黨アルヲ以テ
海外ニ邦家ノ名譽ヲ博スルノミナラス自然又内訌ヲ鎮壓スル
ノ威カアリト云フ可シ而テ代議共和政ヲ批駁スル激烈ナル政
事黨ハ專ラ^社論ヲ主張スル輩ナリ
佛國ハ那敦烈翁三代ノ遺臣各々分派シテ政黨ヲ結ヘリ故ニ往
々此徒ノ陰謀ヲ企ツル恐レアリ又政州ニ所唱ノ皇室黨或ハ勤
王黨國內ニ散在シテ動モスレハ改圖ニ抗シ改革ヲ唱フルノ恐
レアリ斯ク政黨ノ紛雜一ニシテ足ラス而テ邦國ハ常ニ^征稅法
ト政黨論ノ紛々相交^退シテ沸騰スレハ其形状恰モ磨石ヲ回轉
スル如シ故ニ此中央ニ地位ヲ占ムル人民ハ為メニ摩軋ヲ蒙ラ
ナルモノ殆ント希ナリ其國勢既ニ此ノ如クナレハ仮令國民ノ
殷富異邦ニ優レ何程人民ノ愛國心ハ挺然タル兵アルモ邦家ノ
存亡ヲ救フニ足ラサルベシ斯ル人民ニシテ若シ克ク國要ヲ永

遠ニ維持スルヲ得ハ他國ノ^名譽ハ不朽ニ傳リ字内^ニ光被スル
ニ足ルベシ
米國及佛國ノ実跡ニ就テ克ク当局者ノ情況ヲ見ルニ世ノ執政
家タリ或ハ立法家タル者邦國ノ大任ヲ有スルニ當リテ自ラ施
政上ノ義務ヲ覚知スルヲ得ベシ令ヲ距ル數年前ニ於テ近頃貴
族ニ昇身シタル^テントル^テ民ガキングスベシナレ裁判所
ノ首長タル上院ニ於テ演説セシ處ノ論言アリ其中ニ云ク凡
ソ世ノ行政家ガ振テ公務ヲ司トルニ際シ殆ント其ノ人ノ職分
ニ堪ユガル程ノ重責アルヲ知ルベシ然レ此重責ノ業蹟タル
ヤ將來必ス報効アルヲ見ルニ足ルヘシト蓋シ同氏ノ如キ地位
ニ在テ大政ヲ興ケル者カ前文ニ叙スル米佛ノ如キ厄運ニ會ス
ルハ果シテ人目ヲ驚カス程ノ責任ヲ尽ス可シ然レハ米佛ニ
於ケルカ如キ偉業モ宜ク將來ノ龜鑑トナスベシ

凡ソ夫改ノ邦國ヲ擷ヒ且人民ヲ害スルヤ其弊遠ニ國債ノ弊害
アルヨリモ甚シ寔ニ其苦情ハ云フニ忍ビザルモノアリ蓋シ國
債ノ如キハ苟モ國民ノ信用ヲ得ルハ政府ニシテ民財ヲ募ル
ハ至難ナラスト云フベシ殊ニ生財ニ富メル邦國ニ在テハ却テ
民益ヲ助ケ功德ヲ博スルヲ得ヘシ而シテ假令政府カ莫大ノ國
債ヲ負擔セシニ當リ當時廟堂ニ在テ財政ヲ掌ル者或ハ不敏ニ
シテ克ク財務ヲ脩ムル克ハス安ニ方法ヲ設ケテ民財ヲ募ル如
キ所為アリト茲氏俄クニ其國勢ヲ損スルニ足ラス却テ慶福ナ
ル景状ヲ現ハス所アリ此ヲ以テ大政ヲ司トル者若シ其ノ器ニ
當ラザレハ人民ニ對シテ不贖ノ價値ヲ奪フト云フベシ之ニ反
シテ適當ナル人選ヲ得ルハ却テ其俸金ハ安價ナル者ナリ回
想スルニオキヤンストレイノ世ニ有名ナル大法官「ゴスター
ブス、アドルブス」氏ハ曾テ其子ニ告ゲテ曰ク吾人ハ僅々タル工

夫ヲ以テ万人ヲ統馭スルニ足レリト嗟呼今日寔ニ其ノ卓見タ
ルヲ知レリ
貨幣ヲ發シ金融ヲ助クル題款ヲ論スルニ當リ何レノ邦國ニ在
テモ施治者タルモノハ唯々明敏ニシテ克ク經國ノ道ヲ誤ラス
ンハ寔早行政上ノ職分ニ於テハ充分其ノ責任ヲ尽シタリト云
フヘシ然レ氏斯ル通債論ニ関シテ殊ニ緊要ナルハ目下人民ノ
金融ニ切ナル事情ヲ知ルニ在リ而シテ又公債証券ヲ發シ紙幣ニ
交換スルノ方法ヲ設クルニ在ルベシ儲テ其方法トハ專ラ我カ
國ニ行ハル、三、六、五利付ノ公債証券發行法ノ類ヲ云フ其故如
何トナレハ年分若干分ノ利子アル公債証書ヲ所持スル者ハ何
時ニテモ自由ニ紙幣ト交換スルヲ得レハ其方法ノ功妙ナル恰
モ蒸汽機関カ穩行球ノ作用ニ依テ運動カラ節スル如ク財政及
貿易上ノ方向ヲ忽チ改変スルノ活機アレハナリ儲テ公債証券

融通ハ金銀貨ノ融通ヨリモ一層金融ニ便ナル所アリ故ニ此
方法ヲ用ユルハ僅マタル工夫ヲ以テ邦國ノ危急ヲ救テ濟世ノ
功ヲ立ツヘシ

一千八百七十四年第八月四日米國ノ貴府ニ稿ス

ヘンレイ、クレイ、ベトルド

一千八百七十五年第十月十五日日本文ニ関係アルモノ
ヲ他書ヨリ抄出レテ附録トス

佛國銀行ヲ始メ該國ノ大藏卿「マ子」氏ノ方略ハ頗ル答ムベ
キ所アリテ近頃漸ク其方畧ヲ改革スルニ及ヘリ諸テ「マ子」
氏ハ一千八百七十四年第六月退職シテ「ボテツ」氏之ニ代リ
同ク七十五年第三月「ボテツ」氏又退職レテ「レオン」氏之
ニ代レリ而シテ一千八百七十三年第十月三十日ヨリ同ク七十

四年第六月二十五日迄ハヶ月間ニ於テ該行ヨリ發行セシ
紙幣一億零七百万弗ヲ引奉ケタリ然リ而テ一千八百七十
四年第六月二十五日ヨリ全ク七十五年第九月二十三日迄十
五ヶ月間ニ於テハ漸ク二千六百万弗ヲ引奉ケタルノミ故ニ
民間ニ残レル紙幣高ハ未タ四億六千九百万弗アリト云ヘリ
然レハ仮令前行ノ程度ヨリモ一層緩慢ニ紙幣ヲ引奉ケント
欲スルモ實際ニ於テハ決シテ阻塞ヲ免レサル所アレハ容易
ニ実効ヲ奉ケル克ハサルナリ何トナレハ現ニ該行ハ一千八
百七十四年第十二月二十四日ニ於テ亦タ紙幣ヲ發行セシニ
依リ四間ノ融通高ハ五億一千万弗ニ上レリ加之同年第十二
月三十一日ニ於テ重テ又紙幣ヲ發行シタリ故ニ當時民間ニ
在ル紙幣ノ融通高ハ五億三千一百万弗ニ至レリ而テ爾来該
行ハ勉メテ紙幣ヲ引奉ケ之ヲ減却セシト雖モ一千八百七十

五年第三月十八日ニ至リ未タ民間ニ於テ五億一千万弗有餘
ヲ存スレハ其引擧高ノ僅サナルヲ知ルヘシ一千八百七十四
年第七月一日ヨリ同ク七十五年第八月三十一日ニ至ル迄ニ
佛國ハ外邦ヨリ金銀貨幣及ヒ地金銀一億六千七百四十万零
八千五百五十弗ヲ輸入シタリ此内ヨリ八千五百七十万弗ハ銀
行ノ準備金ニ充テラレ又八千一百七十万弗ハ皆ナ民間ニ散
布シタリ儲テ此金額八千一百七十万弗ヨリ前条ニ述ベレ銀
行ノ紙幣減却高二千六百万弗ヲ差引スレハ残金五千五百七
十万弗ヲ得ベシ但シ此金額ハ一千八百七十四年第六月二十
五日ヨリ同ク七十五年第九月二十三日迄十五ヶ月間ニ於テ
全國ノ人民ガ勞カラ以テ各種ノ金銀貨ヲ増殖セシモノナ
リ

前文ヲ印刷ニ付セシ後チ一千八百七十五年第九月三十日

迄ノ銀行報告各ヲ郵寄サレタリ其書ニ云ク當時巴理府ノ
高況ハ衰微ニ赴ケリト虫氏頃ニ幣幣ノ需用ヲ起セシニ依
リ佛國銀行ハ又紙幣ヲ發行シタリ故ニ世間ノ流通高ハ大
ニ増シテ四億八千四百万弗ニ上レリ儲テ一千八百七十四
年第六月二十五日以來該行ハ屢々紙幣ヲ發行シ又減却シ
タリ一旦大ニ之ヲ減却セシニ當リ一度民間ニ在ル流通高
ハ四億九千五百万弗ニ減シタリト虫氏十五ヶ月ノ後ニ至
リ右ノ年月以後ニ於テ屢々發行セシ処ノ紙幣ヲ差引スレ
ハ全般ノ減却高ハ漸ク一千一百万弗ニ過キザリシナリ

佛國ノ人民ハ恭然私情ヲ斥ケテ顧ミサルノ義氣アルヲ知ル
何トナレハ政府カ頃ニ巨額ノ金買ヲ求ムルニ當リ佛國銀行
ハ為ニ民間ニ在ル流通金ヲ引揚ケタリ斯ル困厄ニ會セシニ

敢テ人民ノ苦情ヲ訴フル者ナシ。後政府ハ大ニ財政ヲ脩メ
民間ノ金融及ヒ公債ノ利子ニ供スル資格ヲ有スルノ地域ニ
至レリ。然リ而テ曩ニ政府ハ一分ノ利子ヲ以テ銀行ヨリ巨額
ノ金貨ヲ借り入レシケ目今此負債ヲ償ハシク爲メ五分ノ金
利ヲ拂テ此欠債ニ向ケル正金ヲ求ムルヲ欲セス。銀行ニ令シ
テ一般ニ正金ノ仕拂ヲ止ムルノ方法ヲ行ヒタリ。佛國ノ日耳
曼ト和議ヲ講セシ時談行ヨリ三億零六百万弗ヲ借用セシカ
一千八百七十四年第六月二十五日ニ於テ一億三千三百万弗
ヲ消却シタリ而テ尔後ハ漸ク四千八百万弗消却セシノミニ
テ現今尚ホ一億二千五百万弗ノ欠債ニ當レリ。余輩竊クニ顧
フニ談國政府ク一層財務ニ尽カシ過キル十五ヶ月間ニ於テ
右ノ負債ヲ悉ク償還セシナラバ談行ハ頗ル民間ニ散マシ
ノ紙幣高ク減却シタル可シ。然ルニ如何セン。談國ハ斯ル厄運

ニ會マシト。並ニ更ニ人民ノ情実ヲ顧ミス。只管テ政府及ヒ銀
行ノ方便ニ執リテ理財上ノ困弊ヲ救フ処分ヲ施シタレハ内
國ノ金融ハ多ニ阻塞シテ大ニ民間ノ困状ヲ顯シタリ。而テ改
府ハ先ツ銀行ノ負債ヲ漸次ニ償還シテ一千八百七十八年第
一月迄ニハ六千万弗ノ償額ニ減スルノ目度ヲ定メシ。故此時
ヨリ始テ正金ノ仕拂ヲ舉行スル旨ヲ布令セリ。猶テ又銀行カ
民間ニ在ル普通債付ヲ回収マシ。処テ見レハ紙幣ノ融通法ニ
於ケル所爲ヨリモ一層人民ノ体感ヲ慮ラカル處置タルヲ了
知スベシ。一千八百七十三年第十月三十日談行ハ普通債付ヲ
回収シテ其総額二億七千万弗ヲ同ク七十四年第六月廿五
日ニ於テ一億七千万弗ニ減却シ。續テ又同ク七十五年第九月
廿三日ニ至リ一億一千九百万弗ニ減却スルニ及ヘリ。僅カ此
ニケ年ニ足ラスシテ普通債付ノ回収高ハ五割七分ニ當レリ

余輩按スルニ佛國銀行々斯ル專恣ノ所業ヲ為セシハ歷代ノ
銀行史ニ於テモ恐ク其比類ヲ求メ難カルベシ曩ニ英國ハ紙
幣ヲ消却セシク為メ一千八百十五年ヨリ十七年ニ至ル迄テ
割引債ノ一千四百九十一万七千磅ヲ回復シテ三百九十六万
零六百磅ニ減却セシ一例ヲ知ルノ之前ニ叙記セシ如ク銀行
ノ所業ハ頗ル專横ナリト雖モ佛國ハ幸ニ金融ノ道竅モ浩大
ニシテ現ニ正金銀ノ民間ニ在ル資額ハ十二億五千万弗ニ上
レリ此ヲ以テ從來諸般ノ商業ヲ現金ニテ取扱ヒ来レリ故ニ
諸仕拂ノ為メ銀行ノ貸付金預ケ金及ヒ銀行手形振ニ依頼ス
ルハ實ニ僅々タルモノナリ然レハ一千八百七十五年第九月
廿三日ニ於テ該行ノ預リ金高ヲ算セシニ僅々五千七百四十
万弗アリタリ^(*)儲テ又佛國銀行ハ英國ノ理財法ニ於ル如ク正
金ノ六億万弗ヲ以テ該行ノ準備金ニ充テ世上ノ預リ金高三

十八億四千万弗ヲ始メ割引債及ヒ普通債ノ金額三十五億万
弗ヲ支配マシメ而シテ該行カ此ニケ年来履行シ来レル方法ヲ
執ラシメハ直ニ破産シテ今日迄テ其体面ヲ維持スルヲ得ン
ヤ而テ一千八百七十年第九月以來佛國ハ大ニ財政ヲ脩メ實
ニ宇内ノ人民ヲ吃驚セシムル程ノ偉業ヲ成セリ然レモ熟々
其実況ヲ考フレハ當時該國ノ大藏卿及ヒ政府ハ己ノ度量ニ
優レテ講和ノ償金ト將來邦國ヲ維持スベキ財政及ヒ工業ト
ニ於テ大ニ財カラ尽セシ処アリ以テ佛國銀行ハ殆ト一時閉
店スルニ及ヘリ斯ル事實ヲ例証シ来レハ佛國ノ執政家ガ未
曾有ノ厄運ニ際シ專横ノ所業ヲ為セシハ猶ホ我カ米國ノ「マ
クドゥック」^{「ハット」}トウエール^{「リチャードソン」}「ブリスト
ース」ノ諸氏カ窮途ニ在テ財務ヲ取扱ヒシ如ク又日耳曼ニ在
テハ一千八百七十年同ク七十一年ノ戦後ニ於テ蒙昧ナル執

改家カ財政ヲ脩メレ如ク理財上ノ経畧ニ至テハ何レモ失措
ヲ免レザル所アルヲ知ルヘシ

茲ニ一言ヲ叙センニ凡ソ國債ヲ興シ却テ人民ノ幸福ヲ促セ

レ処アリ故ニ改柄ヲ執ル者ハ克ク其公益ヲ察シ財用ヲ処ス

ル方法ヲ知ラスンバアル可ラス蓋シ賢明ナル執政家ハ公債

ノ為ニ人民ヲ損^傷テ財用ヲ糜費スル処ナク大ニ邦國ヲ利シテ

儼然タル景福ヲ遺スヘシ然リ而テ現今字内ノ列國ヲ通覽ス

ルニ未タ曾テ其國改ヲ奉テ斯ル執政家ニ委任セシ処ナシト

云フヘシ曰ク然リ然リト虫モ唯タ古今ノ歴史上ニ於テ漸ク

介然タル一例ヲ知ルノミ^{按スルニ一例ヲ知ルトハ米國カ理}

邦國ヲ利マシ偉功^{財上ノ困弊ニ當リ紙幣ヲ發シ大ニ}

因ニ云フ巴理府「コントワル、デ、エスコント」^{名社支配人「ロナ}

ルド」氏ハ英國ノ理財法ニ擬シテ小切手ノ振出方ヲ始メ銀

行ニ係ル諸般ノ取扱方ヲ悉ク改革シ佛國ノ高估ヲシテ此

條例ヲ遵奉セシメント企望シ大ニ此事ヲ調査シテ一千八

百六十五年同ク六十八年佛國銀行課ノ委員ニ議マシト並

氏其法遂ニ行レズシテ徒勞ニ属シタリ如何トナレハ其法

全ク實際ニ適マザルヲ以テ到底効績ヲ奉クルニ足ラサル

者アリ是レ承允ヲ蒙ラサル所以ナリ

又^{*}因ニ云フ英國銀行ノ準備金六億万弗ノ内四億万弗有餘

常ニ民間ニ流布マリト云フ姑ク倫敦府經濟家ノ説ニ拠レ

ハ一千八百七十五年第九月廿九日該行ニ遺レル準備金ハ

漸ク一億三千七百万弗ニ至レリト蓋シ又此頃ハ該行ヨリ

大ニ正金ノ外散マシラ知ラル、ナリ

國弊救治論

一千八百七十四年第十月貴府刊行ノ新聞紙ヨリ之ヲ取ル
方今我國政體ノ愈々改進スルニ從ヒ從來人民ノ愛國心アルモ
ノ翻然其信憑ヲ喪シ益々汚俗ニ流ル、弊風ヲ未セリ顧フニ斯
ル時運ニ會セシハ未タ我カ歴史ニ曾テ散見セラルル処ナリ諸
熟々國情ヲ視ルニ官府ト人民トノ間ニ於テ窮ニ情實ノ行ル、
ノミナラス唯民間ニ在テモ其人種ニ差別アルハ勿論又諸般ノ
縁故及ヒ地所ハニ関レ頗ル情實ノ行ル、処アリ故ニ苟モ府邑
アル地方ニ在テハ陰患ナル所業ヲ媒分スル者徘徊シ苞苴或ハ
竊盜ノ如キ所業行ハレテ其人倫ヲ紊リ民俗ヲ侵害スルモノ實
ニ枚舉スルニ遑アラサルナリ現今市井中ニ往々二十年前ノ借
家賃ニ於ケル程ノ金額ヲ税金トシ仕拂ヒ純然タル家主ノ權利
ヲ得タルモノアリ蓋シ斯ル弊害ハ時運ト共ニ愈々増進シテ底
止スル処ナカルヘシ既ニ本府ノ如キハ斯ル弊害アルヲ察シ頗

ル改革ヲ行ヒシト雖モ充分其実効ヲ舉クルニ足ラサリシナリ
然リ而シテ我々共和政ニ於テ其民治ニ関スル問題ヲ論センニ
ハ他ナシ唯々此弊害ヲ救正スルノ方法ヲ公明ニシ而各地ニ偏
頗ノ患ナカラシメ其利益ヲ全般ノ人民ニ被ラシムルニ在ルノ
ミ
今ヤ全國ノ人民ヲ誘掖シテ各其利益アル職業ニ從事セシメ恰
モ我カ革命戦争ノ末路ニ當リ英王ノ藩屬地ニ於テ大ニ工業ヲ
奨進セシ如ク内國ノ諸工業ヲ振作シテ再々其勢力ヲ衰退セサ
ラシメント現時民間ニ行ハル、処ノ壓制ナル所業ハ漸次ニ退
却シテ遂ニ其痕跡ヲ收ムルニ至ルヘシ夫レ共和政ノ基本ハ協
合ニ成レリ故ニ其権力全國ノ人民ニ在レハ他ノ政体ヨリニ殊
ニ庶民ノ知識及ヒ徳義ヲ重要ト認ムルノ処アリ苟モ此目度ヲ
忽ニスレハ今日我國ノ憂情ニ於ケル如ク民間ニ行ハル、所業

ハ愈々専横ニ変スルモノナリ是故ニ共和國ノ保安ハ唯々其基
本ト認マル所ノ智徳ヲ以テノミ之ヲ維持スルヲ得ルモノトス
夫レ此ノ如キ共和政ノ邦國ニハ普通教育法ヲ最要トスレモ今
日我々國情ヲ察スルニ日々濫情ニ流ル、弊習行レ庶民皆テ機
智ヲ以テ生計ヲ營マントスル心術ヲ逞スル者ノ、如レ是ヲ以
テ道德上ノ所為ハ唯々交際上ノ体裁ヲ繕フノミニ止レリ民情
愈々斯ル地域ニ進メハ共和政ノ法令ハ變レテ壓制ヲ助クル器
械ニナルモ未タ期ス可カラサルナリ
今ヤ邦國ヲ盛大ニシ財政及ヒ信用上ノ危険ヲ救フノ方略ハ日
下民間ニ於テ最モ其人倫ヲ紊ル賄賂ノ所業ヲ遏ムルニ在リ蓋
シ先ツ此弊害ヲ除カスハ決シテ治績ヲ挙クル克ハサルヘシ
是レ余輩ノ確信シテ敢テ断言ヲ憚ラサル処ナリ而テ我々人民
ヲ勉テ職業ニ就カシメハ民間ニ於テ奸曲ノ所業ヲ企ツル者ハ

主伴相々乖離シテ黨類ヲ集マル結合カヲ解散セシムルヲ得ヘ
シ
前行叙述セシ目度ヲ実行メンニハ先ツ要路ニ在テ大改ヲ掌ト
ル者常ニ熟慮シテ國民ハ何程ノ貨幣ヲ有スルハ全般ノ金融ヲ
裕スルヲ得ヘキ乎豫メ之ヲ究明シテ以テ具資財ヲ求ムル方法
ヲ行フニ在リ是レ目今ノ惡弊ヲ退クル要義タルモノナリ果シ
テ然ランニハ傾國ノ所業ニ臨ルノ弊害ヲ除クヲ得ヘシ然リ而
テ斯ル弊害ノアル所業ハ暴政ノ專制國ニ在テハ大概其實行ヲ
免レサル処アリ何トナレハ斯ル專制國ニ於テハ安リニ紙幣ヲ
發行シテ民俗ヲ破リ財政忽チ危険ニ進ミ破産、閉店、邑里ノ零落
通商上ノ梗塞、民間ノ困弊ホノ如キ慘状ヲ現出スル所アレハナ
リ
顧フニ方今濟民ノ急務ハ執政家カ先ツ紙幣ノ條例ヲ更ニ制定

レテ三、六五利付ノ公債証書ヲ發シ紙幣ト相ヒ交換セシムルノ
方法ヲ設クルニ在リ令マ其有様ヲ審ミヒシニ若干分ノ利子ア
ル公債証書ヲ所持スル者ハ何時ニテモ紙幣ト相交換スルヲ得
レハ其状体恰モ蒸汽機関ク穩行球ノ作用ニ依テ運動クラ節ス
ル如ク貿易及ヒ通商上ノ景況ヲ自在ニ轉變スルノ活機ヲ有ス
ルモノナリ此ヲ以テ金融ニ紙幣ヲ用ユルノ法ハ實際ニテ金銀
ノ通貨法ヨリ一層諸拂ニ便ナル処アリ諸テ我國ノ旺大ナルハ
曾テ世ノ私贖スル処ナリト望モ今ヤ亦タ其金融ニ便ナル方法
ヲ設ケテ以テ再ヒ其声價ヲ増ヤント欲ス蓋シ人ノ信憑ヲ以
紙幣ヲ取收ヒ金銀貨ノ代用ヲ司ラシメハ民間ノ諸仕私ハ現私
ト成リ貸借上ノ取引ヲ減却スルヲ得ヘシ是ニ於テ邦國ハ依然
トレテ盛大ヲ保持スルノミナラス理財上ノ形勢決シテ危陰ニ
涉レル恐レナカル可シ顧フニ斯ル陰運ニ遭逢スル時ハ彼ノ聖

典ニ於テ邦國清寧ニシテ始テ民俗改マルト云ヘル実相ヲ目撃
スルニ至ラン然ラハ我々共和政ノ治績ニ於テ最早完備セサル
モノナリト云テ可ナリ視ヨ之ニ反シテ当今宇内ノ邦國皆ナ苛
政ニ苦ミ共和政ヲ屬望セザル処ナキニ於テラヤ

南亞米利加洲救治論

該國ニ弊害ノ起レル所以ヲ究明シテ之ヲ救治スルノ方法ヲ

論ス

此篇ハ一十八百七十四年第十月二十二日ニヨルノ府刊行

ノトリゴトニ新聞紙ノ寄答ヲ抄出シタルモノナリ

譬へハ蒸気車ノ鉄軌ヲ越テ奔逸セシニ當リ之ヲ其本位ニ回

メンニハ曾テ斯ル器械ヲ扱ヒシ事ナキモノ五十名ヲ使役スル

ヨリ寧ロ器械手ノ優等ナル者十人ヲ選用スルニ若カサルナ

リ

近頃英國人ハ「ラザル」政府ノ囑托ニ依リ「テムス」河畔ニ於テ

甲鉄艦「インデペン」ヤ号ヲ製造シ之ヲ船卸セシニ該艦ノ

重量ナルカ為メ河底ニ礙レテ艦体動カズ此時ニ方リ倫敦府「タ

イムス」記者カ該艦ヲ放流スルノ意見ニハ火藥ヲ以テ艦体ヲ破

碎スヘシト云ヘリ然ルニ其頃幸ニ優等ナル器械手「ジョン」トウ

歳

ジョシ氏ハ斯ル難題ヲ解スル識量アル人ナレハ直ニ自任シテ
艦底ノ損所ヲ繕ヒ巧ニ抽水器ヲ使用シニ恙ナク該艦ヲ救ヒ故
流スルヲ得蒸気機関ヲ運轉シテ再々造船塲ニ入レ修復ヲ加エ
タリ故ニ該艦遂ニ廢物ニ屬セザリシナリ現今南亞米利加洲ノ
変情ハ恰モ甲鏡艦インデペンデンシヤ号カ河底ニ礙シテ再々
所用ニ適セサル景況ヲ現セシ有様ニ類セリ何トナレハ令マ該
國ニ向テ苛激ナル手段ヲ施シ其病患ヲ救ハント欲セハ却テ病
毒ヲ蔓延シテ愈々弊害ニ陥ルノ恐アルノミ故ニ之ヲ救治スル
ノ方法決シテ苛激ナル可カラズ宜シクインデペンデンシヤ
ヲ救ヒレ如ク極テ着実ナル手段ヲ用ユルニ在リ姑ク余輩ノ所
見ヲ以テスレハ先ツ南亞米利加洲ニ弊害ノ起レル原因ヲ究明
シテ而テ后テ実施ス可キ救治法ヲ查定スヘシ蓋シ其趣ハ甲鉄
艦ノ的例ニ於ケル如ク方便ニ依テ純然タル成果ヲ現出セシム

ルヲ得ヘシ
南亞米利加洲ハ人民ノ交際家ニ稀疎ニシテ諸工業ノ如クモ僅
ニ分業セシノミナレハ南北戦争ノ以前ニハ人民皆ナ僱役ニ安
シテ奴隷タルヲ甘受シタリ蓋シ斯ル弊風ヲ去セシハ全ク該洲
人民ノ貧窶ナルヲ以テ竟ニ此習俗ニ遷移シタルナリ斯ク其
業ヲ企ツル者極テ寡シナルニ依リ該國ニハ曾テ獨裁タル中等
ノ人ヲ現出セシ例ナシ蓋シ中等ノ民族トハ彼ノ合衆國政府カ
危急ノ秋ニ當リ自ラ奮起シテ政府ヲ政ニ自由國ノ堡塞トモ仰
慕サル者ヲ云フナリ偕テ我々南部ノ人民ハ既ニ叙述セシ如
キ情体ナレハ苟モ魁首タル名望アル者土民ヲ煽動スレハ直ニ
干戈ヲ執テ擾亂ヲ起スヘシ是ヲ以テ實ニ此人民ヲ教唆スルハ
容易ノ業ナリ夫レ此ノ如ク人民ノ蠢愚ニシテ誘惑サレ易キ所
以ハ第一ニ此國民ニ發生シ来レル大原因アリ何ソヤ土民ヲ煽

動レテ叛乱ヲ企ツル輩ハ皆諛地へ産スル棉ノ一大物産タルヲ
知り常ニ此物産アルヲ頼テ暴挙ヲ企ツレニ殆ト将来ノ成績ヲ
豫定スル処アレハナリ蓋シ此棉ハ歐洲ハ勿論北亞米利加洲ニ
輸出スルモ充分高利ヲ占ムル貿易品タルヲ知ルヘシ備テ我カ
南部ノ諸國ハ四ヶ年間に交戦ノ後竟ニ挫衄シテ合衆國政府ノ支
配ニ属セシノミナラス我カ北部ノ人民カ英敏ニシテ交際上ノ
景况愈々盛大ナルニ靡排セラレテ南部ノ國勢ハ却テ衰退スル
ニ至レリ蓋シ北部ノ諸國ク隆運ニ會セシモノハ全ク諸工業ノ
道大ニ振作シテ殖産シタルニ依レリ
交戦ノ結局ニ至リ南ノ諸州ト戦ニ敗レテ遂ニ合衆國政府ノ支
配ニ属シタリト云フ南部ノ人民ハ僅々タル有限ノ資産ヲ頼テ
兵革ヲ起シ兵士ヲ給養セシ有様ハ實ニ雄偉ナル所業ト云フヘ
シ其國民カ軍務ヲ執ルヤ恰モ己ノ職業ヲ勉ムル如キ勢カテ頭

ハシタリ斯ク民カテ軍務ニ尽セシト云フ竟ニ屈伏セシヲ
見レハ諛國人ハ自ラ疲弊ヲ救フ克ハサル処アリ實ニ南部ノ降
伏ハ疲弊ニ原因セシヲ知ルナリ亞米利加全洲ヲ大觀スレハ恰
モ其半面ハ元氣衰エテ痿痺加ハリ他ノ半面ハ精心愈々快活ナ
ル画図ニ類スル趣アリ今ヤ斯ク痿痺セシ半面ヲ救治シテ他
半面ニ於ケル如ク其元氣ヲ快活ナラシメンニハ如何ノ方法ヲ
要スルヤ蓋シ此問題ノ如キ八年來我カ政府カ熟思シテ以テ要
件ト認ムル処ナリ殊ニ此問題ハ當時我國ノ大藏卿タル「ヒエウ
ジマク」ロツク氏ノ職分ニ干涉スル処ニアラスヤ然ラハ同氏ハ
既ニ此方法ヲ講究セシ乎曰ク否ナ然レニ彼ハ私利ニ關シテ学
生ノ為ニ稍々其所見ヲ述ヘタルノミ而テ當時世ニ名アル議者
及ヒ学士ノ徒ハ皆ナ此問題ニ於ケル論說概テ無替ニ涉レルヲ
証シテ悉ク之ヲ排斥スルニ至レリ惜哉此ノ著論ハ一般ノ法訓

ト認ムルニ足ラサリシナリ
大蔵卿「マクロック」氏ノ所見ヲ考フルニ戦争ノ際ニハ理財上ノ
景況モ不生ニ異ナル詔合アルヲ論究セシ処ナクシテ唯々實地
ニ処スル方法ヲ論シタリ之カ為メ我カ人民ハ湯火ノ峻刑ヲ蒙
リタル有様ヲ受ケタリ斯ル惨苦ハ君主國ニ於テモ恐ク堪忍シ
克ハサル処ナシ可シ蓋シ戦乱治レハ人民愈々旺盛ニシテ幸福
ヲ享クル詔ナルニ却テ斯ル惨状ヲ蒙マルニ至レリ然レモ當時
大蔵卿ハ大ニ紙幣ヲ引奉ケント欲セシカ代議院ノ権カヲ以テ
直ニ之ヲ拒止スルヲ得タリ然ルモ尚ホ一千八百六十八年「マ
クロック」氏ハ
意ヲ以テ財政ヲ施セシニ依リ四國ノ諸工業ハ皆々衰退シテ人
民ノ生命ハ高利ヲ負ル貸金人ノ為ニ犠牲ト成ルノ勢アルニミ
ナラス政府ヲシテ公債ヲ決行セシメ之ヲ外國ノ「シンガケイト

オフ、バンククルニ依賴シタルナリ蓋シ此公債ノ如キモ戦争ノ際
ニハ容易ニ処分スルヲ得タル者ナリ斯ク其方略ヲ決行セシヨ
リ理財上ノ形勢愈々危険ニ進ンテ所在皆々零落ニ陥リ通商ノ
道頓ニ梗塞シテ全般ノ困弊ヲ促スニ至レリ諸テ北亞米利加ノ
諸州ハ素ヨリ人民殷富ニシテ其蕃盛ナル南部ノ比ニアラス
リ而テ人民斯ル景況ヲ蒙リ困頓ヲ免レサル処アルヲ觀察スレ
ハ令ヤ南部カ斯ル厄運ニ會シテハ如何ナル惨状ヲ顯ハセシヤ
實ニ想像スルニ忍ヒサルモノアリ何トナレハ南部ハ戦争ノ後
民間ニ於テ殆ト一個ノ傾幣ヲ存セサル程ノ窮途ニ在リタレハ
ナリ審ニ此現状ヲ言ハンニ南部ノ零落ハ實ニ忽卒ニレテ字内
ノ歴史上ニモ恐ク類例ヲ見サル程ノ地域ニ及ヘリ南部ニ於テ
ハ此際ニ當リ苟モ世ノ利益タル支物ハ悉ク殄滅ニ屬セシカ故
富民ノ後皆々破産シ地無ノ類一モ價直ヲ有スルモノナシ加之

凡百ノ物品菓子課税ヲ免ル、克ハサルノミナラス或ハ其財物
ヲ没収ナルハ、ニ至レリ而テ人民ハ汚俗ニ流レテ交際上ノ形勢
全ク瓦解シ収拾ス可カラサルノ勢ト成レリ今マ其徴証ヲ筆ス
レハ南部聯邦國ノ夏情ハ槩ニ愛倫、西班牙、^シ、^リイ、希臘、米希斯
哥、^洲ノ容体ニ均シキ景状ヲ現ハセリ

因ニ云フ一体「マク」ロツク氏ハ純然タル政事家ニアラズレテ
彼ノ諸學術ニ涉獵シ只管ヲ実行ヲ重スル人ナレハ自ラ施行
スル処ノ方略ニ依テ如何將来ノ成果ヲ慮カラサル所アリ何
トナレハ「マク」ロツク氏カ履行セシ如キ財政ハ一千八百十
年同リ二十七年英國カ己ニ實施シタルヲ以テ歴々世ノ熟知
スル処ナレハナリ儲テ英國宰相「ウ」イルヤム、^ビツトハ自ラ主
唱シテ一千七百九十三年佛國ト交戦セルヲ宣告シタリ此
貴途ニ関シテ英國銀行ハ一千七百九十七年第二月二十七日

余義「ト」ハ直ニ告諭シテ曰ク今ヤ銀行ヲ閉鎖スル程ノ切迫ニ
會マレメタリト茲ニ我カ政府ニ執リテハ突ニ金山ヲ發見シ
タル効力ニ讓ラサル可シト是ニ於テ英國銀行ハ其旨ヲ承領
シテ又融通ヲ為レ便金ノ任ヲ保持スルヲ得タリ此ヲ以テ馬
業衰ヘズ邦國ノ威カヲ墜サ、^リシナリ故ニ英國ノ遂ニ一千
八百十五年「ウ」オトルロ「^ニ」於テ佛帝「^ナ」^ボレオン「^第」^一世ノ兵
勢ヲ挫折スルニ至レリ而テ此戦争ノ際ニ當リ世ノ論理家カ
專ラ主唱セシ着實ナル論言ハ全歐ノ擾亂全ク消散セシ後ニ
至リ大ニ人民ノ幸福ニ関シテ効カアルヲ知ルニ及ヘリ一千
八百十九年「^ヒ」ル氏ノ立案セシ議案ガ一千八百二十三年五
月一日ニ於テ議決ニ依リ正金ノ仕拂ヲ回復シ而シテ遂ニ民間
ニ在ル紙幣ヲ大ニ引奉ケタリシカバ人民ハ之ヲ為メ破産ス

ル者夥多ナリシナリ一千八百十六年ヨリ一千八百二十二年迄ニ英國政府ハ一ケ年平均一千六百万磅ヲ毎年公債ノ償還ニ向ケタリ而テ一千八百二十三年ニハ唯タ七百四十八万二千三百二十五磅ヲ其償還ニ向ケタルノミナレハ其金額ハ大ニ前年ヨリ減シタリト云ヒ其翌二十四年ニハ一千零六十二万五千零五十九磅ヲ償還シタリ尔後公債ノ償還ニ向ケル高ハ更ニ二十三年度ノ金額ヨリ超過セサルノミナラス其金額漸次ニ減少シテ一千八百三十二年ニハ唯タ五千七百零六磅ヲ償還シタルノミ故ニ斯ル有様ナレハ一千八百三十七年ヨリ同ク四十二年迄六ケ年間ニ償還ス可キ高ノ不足ハ一千二百万磅ニ達シタリ而テ一千八百四十三年ニ及テハ民間ニ於テ略ハ正金ニ乏レカラサルノ地域ニ達セレバ故英國政府ハ更ニ公債ノ元金ノ償還ヲ止メタリ我カ大蔵卿「マッコロウ」氏

ハ英國ニ於テ既ニ斯ル的例アルヲ顧ミス殆ト其方略ニ均シク財政ヲ実行シ来リシハ實ニ人民ニ對シテ残忍ナル所業ト云フ可キノミナラス邦國ニ對シテ失措ノ責ヲ免レサルナリ若シ同氏ヲシテ幸ニ英國史ヲ一讀セシメ當時ノ実況ヲ知ラシメハ諒國々理財上ノ困難ニ會シテ如何ニ民業ヲ妨害セシヤ又其財政ノ危険ニ陥リタル景状ヲモ覚悟セシ外アルハ

然レモ斯ル変情一変スレハ奴隸ハ遂ニ自由ノ民タル地域ニ進ムヘシト答フル者アリ蓋シ人民ノ自由ヲ得ルヤ社會上ノ形勢モ自ラ変シテ現然其効徳アルヲ確証スルニ足ルヘシ然リ而テ我々南部ノ諸國ハ人民一体ニ汚俗ニ流レテ苟モ有益ナル所業ナレ業ハ皆ニ衰却ニ属シタルカ故ニ職業ニ從事シテ適當ナル報酬ヲ得ル能ハサルノミナラス活計ニモ支フル程ノ疲弊ニ

會シタリ蓋シ其景況ハ恰モ伊太利國ニ於テ數百年間凶賊ノ徒
カ黨ヲ結テ公然其規則ヲ設立セシ如ク又米希斯哥國ニ於テ從
前ヨリ官衙ノ際ニ賄賂ノ弊業行ハレ貴賤ヲ論セス醜然此醜俗
ヲ憚カラサル処アルカ如シ

前文ニ叙述セシ如ク我國ノ半面ハ人民大ニ汚俗ニ流レテ不幸
ナル景狀ヲ現出シ来レリ今ヤ之ヲ救済センニハ如何ナル方法
ヲ要スルヤ他ナシ唯々人民ヲ誘掖シテ職業ヲ執ラシメ漸次ニ
諸工業ノ進歩ヲ期スルノ外ナシ蓋シ其景況ハ戰爭ノ未略ニ當
リ英國王ノ藩屬地ニ於テ工業ヲ勸奨セシ如キ地域ニ至ラン
ヲ希圖スルノミ斯ク其方略ヲ施為スレハ速ニ實益ヲ舉クルノ
ミナラス人民ノ風儀ヲ矯正シテ社會工ノ景勢ヲ變スルヲ得ヘ
シ是ニ於テカ南部ノ人民ハ頑ニ旧觀ヲ改メ其義烈ナルヤ君主
ニ於テル如ク其篤實ナルヤ我カ合衆國ハ勿論宇内ノ人民ニ對

シテ比肩スルヲ得ルノ地位ニ至ルヘシ其レ余カ此方策ヲ措テ
他ニ拯救スルノ道ナレド考フル処ナリ太古ヨリ今日ニ至ル迄
テ世ノ盛衰ヲ論セシ史編ハ勿論中古以來ノ史編ニ於テモ故テ
明瞭ニ此要義ヲ教示シ来レリ故ニ尋常ノ才學アル者ハ一閱シ
テ充テ其真理ナルヲ確信スルニ足レリ
夫レ工業ノ振興マンニハ何ノ種類ヲ問ハス先ツ應外ノ貨幣ヲ
融通ニ供スルニ在リ若シ然ラスンハ人々相々交換シテ各自ノ
需用ヲ達スル處ハサルニ依リ人民ノ勞力ハ徒為ニ属セサルヲ
得サルナリ今ヤ南部ノ邦國ヲ振作スルノ方法ヲ設ケンニハ第
一著ニ南部ノ人民自ラ其権力ヲ以テ融通ニ供スル金額ヲ定ム
ルニ在リ然レバ南部ハ州會ニ於テ其人民ニ必要ナル馬鈴薯小
麥穀物馬刺牛牝牛綿羊類ヲ輸入スル制限法ヲ施設セサルノミ
ナラス夫等ノ所用品ニ於テ何ノ品類ハ實モ其人民ニ切要ナル

乎或ハ一般ニ缺ク可ラサルモノナル乎凡ソ民間ニハ幾何ノ貸
幣ヲ有スル乎ヲ考定セサル処アリ蓋シ融通ノ貨幣高ヲ査定ス
ル如キハ自在ニ属シ恣々容易ナル所業ト云フト茲モ法律ヲ制
シテ邦國ノ通債法ヲ施設シ克ハサルニ至ラハ實ニ財務ヲ會得
セサルノ人民ト云フヘシ何トナレハ南部ハ充分ノ正金ナケレ
ハ邦國ニ違當ナル金融ヲ為ス克ハス視ヨ南部ニ於テハ僅カナ
ル正金銀ヲ融通ニ供シテ一般ノ通債ト定ムルノミ此ヲ以テ其
正金ハ人民ノ需用ニ應スルニ足ラサルノミナラス斯ル貧弱ナ
ル邦國ニシテ資財ニ乏シキ時ハ常ニ富強ナル他國ノ為ニ壓倒
サレテ其人民ニ切要ナル貨幣ハ却テ他邦ニ流散シ其勢ニ利ス
可ラサルモノナリ

令ヤ人民当然ノ権カヲ以テ融通ニ供スル金額及ヒ其品質
ノ種類杯ヲ認定スレハ曾テ財本ヲ衰業ニ委子シ者ハ為ニ損耗ヲ
指示ス

享クル処アルヘシト茲モ斯ル利益ハ放棄セサルヲ得サルナリ
然リ而テ斯ク紙幣ヲ發シ融通ヲ起ス所業ヲ法律ニ擬シ変情ニ
論スルモ決シテ其舉行ヲ非トスルノ理ナシ如何トナレハ國民
ハ年来ノ疲弊ニ會シ貧困ニ陥リタルノミナラス今マ卒ニ此權
利ヲ拒ミ紙幣ノ金融法ヲ舉行セサレシメハ人民又厄運ニ會ス
ベシ蓋シ紙幣ヲ引上ケルハ人民ノ適度ト認ムルニ存ルノミ
邦國アリ其用度ニ應シ適當ナル金額ヲ定テ以テ一般ノ融通ニ
供セシ例アリ今マ之ヲ引証シテ考案ニ備ヘントス諸テ合衆
國政府ハ公債ニ三分六厘五毛ノ利子ヲ付シテ公債証券ニ其性
質ヲ變セシメ何時ニテモ持主ノ勝手ニ任テ紙幣ト引換エルノ
方法ヲ設ケナハ是ニ於テカスル利子アル公債証券ヲ所持スル
者ハ何時ニテモ紙幣ト交換シ得ルノ便利アルハ恰モ其状態蒸
汽機関ク穩行球ノ作用ニ依テ運動カラ節スル如ク財政及ヒ通

高上ノ景況ヲ自在ニ左右シ得ルノ活機ヲ備ヘタリト云フヘシ
故ニ金融ニ紙幣ヲ用ユルノ法ハ實際ニ於テ金銀ノ通貨法ヨリ
一層仕拂ニ便ナル処アリ是ニ由テ之ヲ觀レハ金或ハ他ノ物品
ヲ以テ貨幣ト定ムルハ草昧ノ世ニ行ハレシ蕃民ノ所業ト云フ
可キナリ

結局ニ至テ故ヲ一言ヲ要スル者ハ他ナレ我カ政府ハ此ノ如
ク民俗ノ破レタル南部ノ地ヲ處置スルニ當リテハ決シテ苛激
ナル手段ヲ施シ其政圖ヲ誤ル可クラス姑ク諛地ノ實況ヲ探リ
テ其汚毒ヲ發スル病源ヲ究明スルニ在リ而テ前文ニ述ヘシ甲
鏡艦インデペンデシヤ号ヲ取扱ヒレ如ク極メテ着実ナル方
法ヲ設ケテ救済セントテ希望スルナリ然ラハ諛地ノ景況一變
シテ必ス其好成果ヲ收ムルノ地域ニ至ルヘシ而テ現今我輩ノ
自警シテ以テ胸襟ヲ放ツ可カラサルモノハ他ニアラス近來我

カ合衆國ノ民俗愈々破レテ大ニ弊風ヲ顯セリ故ニ南部ノ邦國
ヲ救済スルノ方法ハ早晚遷轉シテ吾輩人民ヲ救済スルノ方法
タルヲ確信スルヲ得ヘシ聖典ニ云ハスマ人ノ為ニ天幸ヲ祈ル
我カ与フル祉福ハ早晚彼ノ如ク已レニ酬ユルノ祉福タルヲ知ラ
カランヤト笑ニ吾人ハ此金言ヲ服膺ス可キナリ

一千八百七十四年第十月三十一日米國貴府ニ稿ス

ハンレー、カーレー、ベールト



